

オヤジの会（中古メガネの回収）

岡島利夫

私が所属するオヤジの会の殆どは、転勤が多かった私の転勤先での同僚や、それぞれの土地で知り合いになった連中が不定期に集まる飲み会が殆どである。それでも今夜久しぶりに、定例会場である新橋の居酒屋に集るオヤジたちは、ただ飲むだけでなく、小規模でも良い、何か**社会貢献**につながるようなことをしようと考えている真面目な？オヤジたちである。それぞれが所属する会社内部に呼びかけ、不要になり、引き出しの中に眠っている中古メガネを供出してもらい、そのようなものでも必要としている人たちに供与しようということになった。この活動はすでに10年以上続いている。集まった総数は9万個以上になった。さて、少しずつ謎解き方式でこの活動の概要を説明していこう。

1. 皆さまはジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナという人をご存じだろうか？

彼は1906年に英国統治下のセイロンで生まれ、1996年に没したスリランカの第2代大統領である。独立後は内閣で要職を務め、1977年から1978年まで首相を、大統領制移行後は1978年から1989年にかけて務めた。

1951年には、サンフランシスコ講和会議にセイロン代表として出席した。その際の会議演説でジャヤワルダナは、「**憎しみは憎しみによって止むことはなく、愛によってのみ止む**」という法句経の一節を引用して、セイロン（現スリランカ）は日本に対する戦争賠償請求を放棄する旨の演説を行った。

また、彼は1996年の死去の前に書かれた遺書において「**私の右目はスリランカ人に、左目は日本人に**」との遺言を残しており、その後、その片目は日本に贈られ群馬県の女性に移植された。

2. 集まった中古メガネをどうするか？

供与先をどこにするか等については色々な案が出されたが、オヤジの会メンバーの一人にスリランカ紅茶を毎年大量に輸入している三井物産の男がいたり、メガネ屋さんの「パリミキ」につながる男がたり、ロータリー・クラブのメンバーでスリランカ・ロータリー・クラブと交流をもつ男がいたり、経験豊富なオヤジたちの知

恵を集めると結構、色々な絆が見えてくる。上記1. のような歴史的背景を踏まえ、供給先はスリランカとなった。

集まった中古メガネは、NPO法人である「スリランカ友の会」で取り纏め、毎年一回、「パリミキ」が検眼士等を養成するために作った学校で、岡山にある「眼鏡医療技術専門学校」に一括持ち込む。すると生徒さんたちが、研修の一環として一つ一つのメガネの度数等を検査し、その検査結果を明記した記録を一つ一つのメガネに付し、仕分けしてくれる。それらをロータリー・クラブや在日スリランカ大使館経由で、スリランカに送り、メガネを必要とする人々に無償で配布してもらうという流れになっている。

3. すこし古いが参考まで関連資料を添付して置く。



岡山にある眼鏡医療技術専門学校
「ワールドオプティカルカレッジ」



2016年2月末にコロンボロータリークラブに贈ったリフレッシュメガネが、4月末にホマガマ病院眼科に寄贈されました。

これからも日本スリランカ友の会では不用メガネを岡山の「メガネの三城」に送って、専門学校の皆さんに整備していただきます。
そしてスリランカに届け、コロンボロータリークラブを通じて、メガネを必要とされる人たちに贈っていただきます。

2月末には90本のリフレッシュメガネをスリランカに届けました。